

■11月のおすすめ本

だんだん気温が下がって来たので風邪に気を付けましょう。

*図書室にあります	(図書委員のおすすめ)		
	かがみの孤城		
	辻村 深月	P415	文庫
	ポプラ社	2017年	
	学校での居場所をなくし、閉じこもっていたところの目の前で、ある日突然部屋の鏡が光り始めた。輝く鏡をくぐり抜けた先にあったのは、城のような不思議な建物。そこにはちょうどころと似た境遇の7人が集められていた		
	なぜこの7人が、なぜこの場所に。すべてが明らかになるとき、驚きとともに大きな感動に包まれる。 生きづらさを感じているすべての人に贈る物語。一気読み必至の著者最高傑作。		

*図書室にあります	(図書委員のおすすめ)		
	祈りのカルテ		
	知念実希人	P224	文庫
	KADOKAWA	2018年	
	諏訪野良太は、純正会医科大学附属病院の研修医。初期臨床研修で、内科、外科、小児科など、様々な科を回っている。ある夜、睡眠薬を大量にのんだ女性が救急搬送されてきた。その腕には、別れた夫の名前が火傷で刻まれていた。離婚して以来、睡眠薬の過剰摂取を繰り返しているというが、良太は女性の態度と行動に違和感を覚える。初期の胃がんの内視鏡手術を拒否する老人や、循環器内科に入院した我が儘な女優など、驚くほど個性に満ちた5人の患者たちの謎を、新米医師、良太はどう解き明かすのか。		

*図書館にあります	(図書委員のおすすめ)		
	ジョーカー・ゲーム		
	柳 広司	P280	文庫
	KADOKAWA	2011年	
	天才スパイたちによる決死の頭脳戦！！ "魔王"——結城中佐の発案で、陸軍内に極秘裏に設立されたスパイ養成学校"D機関"。その異能の精鋭達が、緊迫の諜報戦を繰り広げる！ 吉川英治文学新人賞、日本推理作家協会賞に輝く究極のスパイミステリ。		

*図書館にあります	(図書委員のおすすめ)		
	あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。		
	汐見夏衛	P275	文庫
	スターツ出版	2017年	
	親や学校、すべてにイライラした毎日を送る中2の百合。母親とケンカをして家を飛び出し、目をさますとそこは70年前、戦時中の日本だった。偶然通りかかった彰に助けられ、彼と過ごす日々の中、百合は彰の誠実さと優しさに惹かれていく。しかし、彼は特攻隊員で、ほどなく命を懸けて戦地に飛び立つ運命だった…。のちに百合は、期せずして彰の本当の想いを知る…。涙なくしては読めない、怒涛のラストは圧巻!		

*図書館にあります	(図書委員のおすすめ)		
	ケーキを切れない非行少年たち		
	宮口幸治	P192	文庫
	新潮社	2019年	
	児童精神科医である筆者は、多くの非行少年たちと出会う中で、「反省以前の子ども」が沢山いるという事実気づく。少年院には、認知力が弱く、「ケーキを等分に切る」ことすら出来ない非行少年が大勢いたが、問題の根深さは普通の学校でも同じなのだ。人口の十数%いるとされる「境界知能」の人々に焦点を当て、困っている彼らを学校・社会生活で困らないように導く超実践的なメソッドを公開する。		

*図書室にあります	先生方のオススメ		*図書室にあります
岩崎先生のオススメ		渡邊先生のオススメ	
第34回横溝正史ミステリ大賞受賞作。元お笑い芸人が描く驚くべきのミステリ 神様のような清廉な教師、坪井誠造が逝去した。その通夜は悲しみで包まれ、誰もが涙した——と思いきや、年齢も職業も多様な参列者たちが彼を思い返すうち、とんでもない犯罪者であった疑惑が持ち上がり……。		大学生だった「私」が鎌倉で出会った「先生」は、「恋は罪悪だ」など不思議な言葉を残す。私は先生と親交を深めるなかで「先生の過去」の話を聞くと約束をする。その矢先に帰省すると父親が危篤状態に。先生から届いた手紙には「私は死んでいるでしょう」と書かれており、汽車に飛び乗って東京に戻ろうとする。手紙には、親戚に騙された過去や友人・Kの好きだった女性・お嬢さんを取ってしまい、最終的にKが自殺した話が綴られていた。	
	神様の裏の顔		こころ
	藤崎翔		夏目漱石
	KADOKAWA		岩波書店
	2016年		1914年
	384ページ		384ページ